

「Edaphologia」投稿規定

(1978年5月制定)

最終改正 2024年6月12日

1. 本紙は土壌動物に関する原著論文・短報・総説・学会記事等を掲載する。また、短い観察記録・意見紹介・ニュース・依頼などの雑文を収録するための欄「ミミズの手帳」を設ける。原著と短報は、独自の新しい発見を記述するものであり、原稿は、その内容が他の刊行物にこれまで発表されていない、あるいは他誌に投稿中でないものに限ることとし、原著論文・短報・総説は、少なくとも2名の審査員による査読を受ける。

学会賞等受賞を受けて投稿された論文等の査読の有無については、投稿者の希望による。査読を受ける場合には総説（学会賞受賞論文等）として、受けない場合には、学会賞受賞記念論文等として掲載する。投稿論文の扱う内容が本誌の趣旨と合致しない、あるいはフォーマットが投稿規程の指定するものと著しく異なる等と判断された場合、編集委員会の判断によって受付を行わずに返却されることがある。なお、「ミミズの手帳」の投稿については本会ウェブページに掲載されている投稿ガイドラインを確認すること。

2. 責任著あるいは第1著者は会員で、その年度の会費を納めた者に限る。ただし、共著者には会員外の者を含むことができる。招待執筆などの場合、編集委員会の承認により会員外の者が責任著者となることも可能とする。

3. 著者の倫理的責任とオーサーシップ: 著者は、日本学術振興会のガイドライン（Section IV: Presenting Research Results）に従うものとする（<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>）。また、生物多様性条約（CBD）の遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS, Access and Benefit-Sharing）に基づき、遺伝資源の利用に関する国際的な法律や、標本を採集した国の法律を適切に遵守すること。また、海外の遺伝資源を用いた場合、原稿にはABSを正しく遵守していることを示す適切な証拠（公文書の番号、担当した現地機関の名称など）を記載すること。必要に応じて、ABSアドバイザー・エディターは、著者が倫理的責任を正しく遵守するための提案や提言を行う。

4. 著者が修正稿を編集委員会に送り戻す際には、各査読者のコメントそれぞれに、どの部分をどの様に修正したのか、具体的な回答を作成すること。査読者のコメントが、部分的あるいは完全に受け入れられない場合には、その理由や説明を回答の中で述べる

こと。原稿の採否は編集委員会で決定する。

5. 投稿は e-mail の添付ファイルによる電子投稿が望ましい。本文は doc もしくは docx 形式、表、および、図は PDF 形式で作成し、合計 5 MB 以下のファイルサイズにして、e-mail の添付ファイルとして投稿連絡表¹⁾と一緒に編集幹事宛 (jssz.edaphologia@gmail.com) に投稿する。図は、受理後に高解像度のものに変更するため、投稿時には、査読に必要な解像度まで圧縮したものを使用してよい。ただし、査読に高解像度の図が不可欠などの理由で合計 5 MB を超える場合、および、上記とは異なるファイル形式での投稿を希望する場合には、投稿に先立ち編集幹事にその旨を打診すること。

紙媒体で投稿する場合は、原稿は 3 部を編集幹事宛、簡易書留便で送付する。原稿 3 部のうち 2 部は複写されたものを用いる。

¹⁾日本土壌動物学会 HP (<https://japan-soilzool.jp/>) から電子版を入手することができる。

6. 原著論文・総説は和文または英文で、次の順序で記述する。

(1) 和文の場合-①表題 ②著者名 ③所属機関および住所 ④責任著者名²⁾およびメールアドレス (無い場合は未記入) ⑤英文アブストラクト (英文表題, ローマ字著者名, カッコ内に所属機関および住所³⁾, アブストラクト本文 (300 語以内; 原則として引用文献を含めない) の順) ⑥英文キーワード (英語 6 語以内, 内容上適切な英語以外の外国語は認める, アルファベット順) ⑦本文 ⑧摘要 (600 字以内; 原則として引用文献を含めない) ⑨和文キーワード (日本語 6 語以内, 内容上適切な外国語は認める, アルファベット順) ⑩引用文献 ⑪ランニングタイトル (20 字以内)

(2) 英文の場合-①表題 ②著者名 ③所属機関および住所 ④責任著者名²⁾およびメールアドレス (無い場合は未記入) ⑤アブストラクト (300 語以内; 原則として引用文献を含めない) ⑥英文キーワード (英語 6 語以内, 内容上適切な英語以外の外国語は認める, アルファベット順) ⑦本文 ⑧引用文献 ⑨ランニングタイトル (50 字以内) ⑩和文著者名と和文表題

²⁾責任著者は、論文の内容および問い合わせに対して責任を有する著者を指す。

³⁾ただし、著者が複数の場合は、著者名の右上、および、所属機関の左上に数字を付して区別すること。

7. 国名の英文表記は原則として英文で通常用いられているものを用いる（例えば、日本は Nippon ではなく Japan とする）。

8. 短報は、データ数が少ないなど原著論文とするには十分ではないが発展する可能性があるもの、重要な新分布の報告、あるいは、緊急な公表が必要なもの等を掲載するとし、原則 4 頁以内でその形式は前項 6 に準拠する。

9. 本文中での文献の引用は、丸括弧内に著者名と発行年をコンマで区切って示す。著者が2名の場合は著者名を「・」（和文）または「and」（英文）でつなぐ。3名以上の場合は第1著者名のあとに「ら」（和文）またはイタリックの「*et al.*」（英文）をつける。同一著者による同年発行の論文を複数引用する場合は、発行年のあとに a, b... の文字をつけて区別する。ひとつの括弧内に複数の論文を引用する場合はセミコロン（;）で区切り、発行年、第1著者名を基準にして並べる。年号は半角数字を用いること。引用文献は、原稿の末尾にまとめる。第1著者が同じ場合には、まず単著の文献を発行年順に並べ、続いて共著の文献をあとに続ける。共著の文献は共著者の人数が少ないものを先に記述し、次に、第2著者名、第3著者名・・・のアルファベット順に並べる。雑誌名は、原則として省略形を使用せずイタリックで示す。書き方は下記を参考とすること。

本文中での引用例

2論文以上併記する場合は公表年順とし、著者名が変わる場合はセミコロン（;）で区切る。

-本文が英語の場合

Fukuyama (2008) suggested that, Fukuyama and Ishii (2008) suggested that...,

Fukuyama *et al.* (2008) reported ...

-本文が英語で括弧内にくる場合

(Fukuyama, 2008), (Ishii, 2002a, b; Ishii and Kosaku, 2003; Fukuyama, 2007, 2008; Kosaku *et al.*, 2008), (Fukuyama, K., personal communication)

-本文が日本語で英語引用の場合

Fukuyama (2008a, b) は, Fukuyama and Ishii (2008) は, Fukuyama *et al.* (2008) は

-本文が日本語で日本語引用の場合

福山 (2008a, b) は, 福山・石井 (2008) は, 福山ら (2008) は

-本文が日本語で括弧内にくる場合

(福山, 2008), (石井, 2003; Ishii, 2004; Fukuyama, 2007, 2008; 小作ら, 2008), (福山研二, 私信)

引用文献

<和文の場合>

新島溪子, 1984. キシヤヤスデの大発生. 森林立地, 26: 25–32.

新島溪子・藤田桂治・松本久二, 1994. 汚泥堆肥類の施用に伴う林地の土壤動物の変化とその影響. *Edaphologia*, 52: 33–51.

青木淳一, 1973. 土壤動物学. 北隆館, 東京.

福山研二, 1999. 土壤動物の野外調査法, 「森林立地調査法—森の環境を測る—」(森林立地調査法編集委員会編), pp. 87–90. 博友社, 東京.

日本分類学連合, 2003. 第1回日本産生物種数調査. <http://ujssb.org/biospnum/search.php> (2018年1月29日閲覧).

※編集上の都合により, コロンとセミコロンのみ「半角+半角スペース」とする.

<英文の場合>

Yachi, S., Ohtaka, A. and Kaneko, N., 1995. Community structure and seasonal changes in aquatic oligochaetes in an organic paddy field in Japan. *Edaphologia*, 90: 13–24.

Aoki, J. and Harada, H., 1978. Investigations on soil fauna of the Bonin Islands. I. Soil arthropod communities. *Memoirs of the National Science Museum*, 11: 91–106. [In Japanese with English summary]

Wallwork, J. A., 1976. The Distribution and Diversity of Soil Fauna. Academic Press, London.

Tamura, H. and Zhao, L., 2000. Collembola of Yunnan, southwest China I. Onychiuridae, Hypogastruridae, Pseudachorutidae and Isotomidae. pp. 163–167, *In: Taxonomical Studies on the Soil Fauna of Yunnan Province in Southwest China* (eds. Aoki, J., Yin, W. and Imadaté, G.), Tokai University Press, Tokyo.

Subías, L. S., 2018. Listado sistemático, sinonímico y biogeográfico de los ácaros oribátidos (Acariformes, Oribatida) del mundo (except fósils). [Original publishing in 2004. *Graellista*, 60: 3–305.] Online at http://bba.bioucm.es/cont/docs/RO_1.pdf (Accessed 5 Jun. 2018)

著者名は, 7名以上の場合は(第6著者までを連記し)第7著者以降を他(英文の場合は *et al.*)としても良い.

10. 原稿は A4 判の用紙に横書きでダブル・スペースに相当する行間をとり, 周囲の余白を 2.5 cm 以上とし, 左の余白に各行の通し番号を付すこと(通し番号は全ページの

通し番号とする)。ただし、文章作成ソフトウェアの機能の問題などで、通し番号の挿入が困難な場合はその限りではない。原則として手書き原稿は受け付けない。

11. 英語を第一言語としない者は、英文の校閲を受けなければならない。

12. 本文中の生物の和名はカタカナ、学名はイタリック体とし、初出の場合は著者名も書くこと。ただし、学名著者が複数の場合には最後の著者名を「&」で結び、「et」は用いないこと。本文中で用いられた学名の出典は、見出しならびにシノニムリスト中のもの、および、分類学に関する論文において、著者がその学名が指す分類群の何らかの形質に言及したものを除き、引用文献には含めない。見出し語の活字指定は編集委員会に一任する。

13. 原稿は 20 頁までは無料で掲載する。20 頁を超過した場合は、その超過頁分につき全額著者負担とする。ただし、招待執筆などに関しては、編集委員会の承認のある場合はその限りでない。

14. 特別な費用を必要とする図表（カラー印刷・特別製版・複雑な写植・折込み表など）については、その実費を著者負担とする。ただし、冊子出版時に配布される PDF 原稿のみ図をカラーとし、冊子の図は白黒とする場合は無料である。

15. 図は、すべて挿図 (Figure) として扱い図版 (Plate) にはしない。電子投稿の場合、受理後の入稿する図および表のファイル形式は、TIFF 形式、JPG 形式、GIF 形式、PICT 形式、BMP 形式、AI 形式、EPS 形式、ppt 形式、pptx 形式、xls 形式、xlsx 形式、および、PDF 形式が使用可能である。図は、図 1、図 2……、あるいは、Fig. 1、Fig. 2……とし、各図は 1 つずつ別紙に記し、トレース不要の完成されたものとする。図の説明は別紙にまとめて記述する。

紙媒体での投稿の場合、図の大きさは定形外郵便物の限度 (40 cm × 27 cm) 以内とする。なお、原図は原稿受理決定後に提出するものとし、投稿時にはコピーを提出すること。紙媒体での投稿の場合でも、原稿受理決定後に図を送付する際、十分な解像度⁴⁾の電子化したファイルで送付するのが望ましい。ただし、希望する場合、電子化したファイル以外の原図を送付する事も認める。原図の返却については編集幹事の指示に従うこと。

図の縮小率、本文中への挿入希望箇所 (行の通し番号で指定) は別紙にまとめて送付

すること。ただし、希望通りの縮小、および、挿入位置にならない場合がある。

PDF 原稿のみ図をカラーとすることを希望する場合は、白黒印刷においても図の理解に不足がないように本文、図の説明、および、凡例を記述すること。

⁴線画や 35 mm リバーサルフィルムなどの非デジタル素材をスキャナで読み込んで電子化する際の解像度はこれら以上とする：線画は 1200 dpi、白黒写真は 300 dpi、線画と白黒写真の組合せの場合は 800 dpi、カラー写真は 350 dpi、線画とカラー写真の組合せの場合は 600 dpi。

16. 表は、表 1, 表 2……, あるいは, Table 1, Table 2……とし、各表は 1 つずつ別紙に書き、その体裁は編集委員会に一任する。受理後に入稿する表は、PDF 形式が最も推奨される。

17. 校正は初稿のみ著者校正を行い、再校以降は編集幹事に一任する。再校以降の原稿の訂正加筆は遠慮されたい。命名法的行為を含む受理済み原稿については、出版前に編集委員会が ZooBank への登録を行う。したがって、著者が自身の論文や命名的行為を ZooBank に登録する必要はない。付与された ZooBank LSID は、各論文の 1 ページ目に明記される。

18. 論文の内容を支持補強するデータを J-STAGE Data に登録することができる。登録データとして、図の数値、巨大な表、画像データ、動画データ、音声データや研究に利用したコードなどを掲載対象とする。上記以外のデータ類については投稿前に掲載の可否を編集委員長に確認すること。登録データ量には制限があるため、掲載内容は編集委員が適正かどうか審査する。原稿を投稿する際に登録データも添付すること。論文受理後、データを著者が J-STAGE Data に登録し、編集委員が登録事項を確認後公開する。J-STAGE Data に掲載されるデータは、二次利用を許可することを基本とし、利用の範囲は以下に示す中から選択できる。CC-0 / CC BY-SA 4.0 / CC BY-NC-ND 4.0 / CC BY-ND 4.0 / CC BY-NC 4.0 / CC BY 4.0 / Apache-2.0 / GPL-3.0 / GPL-2.0 / GPL / MIT / CC BY-NC-SA 4.0. J-STAGE Data で公開されたデータの著作権は著者または所属機関の帰属とする。

19. 別刷は著者の希望に応じ、実費で 50 部単位で作成する。冊子の出版時に、PDF 原稿を連絡者へ無料で配布する。

20. 本誌に掲載されたすべての論文の著作権は日本土壌動物学会に所属する。図表の転載は編集委員長の許可を受けること。ただし、本誌に掲載されてから12ヶ月経過後、著者は日本土壌動物学会から許可を得ることなく、原稿の出版社版を機関レポジトリや個人のウェブサイトに掲載することが可能である。その場合、著者はJ-STAGEで公開された当該原稿へのリンクを明記しなければならない。

21. 本規定の変更は編集委員会の議決によるものとする。

J-STAGE Data へのデータ登録について

J-STAGE Data へのデータの登録は以下のように進める。

1. 論文内容を支持・補強する Supplementary などのデータを J-STAGE Data に登録したい著者は、論文投稿時に登録したいデータを論文と同時に投稿する。
2. 査読者が原稿と共にデータをチェックする。
3. 原稿受理後、著者がマニュアルに従いデータを J-STAGE Data に登録する。
4. 編集委員が登録項目を確認し登録を完了させる。

登録画面は基本英語で、図のタイトルや説明文は英語での記述になる。J-STAGE Data へのデータアップロードのマニュアルは、J-STAGE のホームページから入手できる (https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_data_deposit_manual.pdf)。

J-STAGE Data に登録されているデータは、次の URL で確認できる。

<https://jstagedata.jst.go.jp/>

J-STAGE Data のライセンスについて以下のサイトで確認できる。

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/J-STAGE_Data_licenses.pdf